

## 令和4年度(2022年度) 第2回とよなか都市創造研究所運営委員会 議事要旨

日 時 : 令和4年(2022年)10月12日(水) 18時00分~19時45分  
傍聴会場 : 人権平和センター豊中3階  
出席委員 : 石川委員、草郷委員、肥塚委員(委員長)、宗野委員(副委員長)、井加田委員  
事務局 : 榎本、森田、石村、松田、比嘉、平田  
傍 聴 : 1人  
備 考 : 会議はオンライン形式、公開は会場でのオンライン傍聴で実施した。

### ○開会

### ○案件(1)

令和4年度(2022年度)調査研究について(中間報告)

資料:資料1「令和4年度(2022年度)調査研究について(中間報告)」

#### ≫「豊中市における地域づくりと健康づくりに関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員:社会的処方について、狭義の定義では対象は患者となっているが、この場合、患者の主体性の形成が強調されているのではないかと思う。一方、広義の定義では対象は住民になっているが、この場合も住民の主体性の形成は強調されているのか。これまでの地域づくりは、住民の主体性の醸成が重視されていたかどうかは曖昧だった。
- ・事務局:社会的処方の議論の中では、どちらかという医療従事者の方が患者の主体性を軽視しがちと言われることが多いように思う。そのため、社会的処方の発祥地とされているイギリスでは、社会的処方の基本理念として「人間中心性」「エンパワーメント」「共創」があえて強調されている。社会的処方の議論の中では、広義の定義に立つ場合のほうが住民の主体性の醸成が前提とされているように思う。
- ・委員:資料には広義の定義の中に患者がなく、患者の主体性、エンパワーメントという要素が見えなくなっている。
- ・事務局:この表は簡略化しているので抜けてしまっているが、報告書では詳しく述べたい。
- ・委員:社会的処方の視点・実践から何が活かせると現段階で考えているのか。
- ・事務局:一つには健康の社会的決定要因という視点を取り入れること。この視点を組み込むと地域福祉に様々な分野が横断的に関わることが期待できる。二つ目は、全国的に地域福祉に医療機関を巻き込んでいくことが難しいと言われている。社会的

処方には医療の側から提唱されていることが多く、両者の連携が進むのではないかとと思われる。

- ・委員：資料にもあるが、健康には個人属性だけでなく環境、社会的要因の影響もある。環境には、ソフトの面だけではなく、物理的な距離、アクセシビリティなども重要な要素となる。すべての要素を取り上げると大変なので、今回はどこにフォーカスするか、課題の抽出と焦点の当て方も考えながら研究を進めてほしい。
- ・委員：社会的処方には様々なアクターが関与するが、特にリンクワーカーの存在が重要と思う。資料では住民と処方者をつなぐのがリンクワーカーとあるが、つなぐだけでなく、その後も伴走型支援になればいい。また、先進自治体では行政職員にリンクワーカーの養成研修を行っているとのことで、大変良い傾向だと思う。
- ・事務局：先進自治体への視察やヒアリングでは、養成研修についても詳しく聞いていきたい。

#### ≫ 「豊中市における孤独・孤立に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：アンケートの中で、「誰にも相談したくない、支援を受けたいとは思わない」という項目があるが、これは孤独感がないから受けたくないのか、孤独感を感じているが受けたくないのか、はわかるのか。
- ・事務局：この項目だけでは不明だが、他の項目と掛け合わせることで背景を探っていきたい。
- ・委員：孤独感を感じていてもどうしていいかわからない、支援につながっていないという人たちを洗い出し、どこにいてどんな属性があるのかに焦点を当ててほしい。
- ・委員：今回の質問項目は内閣府の全国調査のものと同じか。
- ・事務局：基本的には同じものに、豊中市独自の項目を追加している。
- ・委員：主観的な回答の全国平均と豊中を比べるだけでなく、どういった状況にいる人が孤独を感じているかという分析結果を全国と豊中で比べてほしい。
- ・事務局：国がホームページで公表しているのはクロス集計の結果で、ローデータの利用には別途手続きが必要である。まずは豊中市の分析と、国が作成した全国クロス集計を活用しての比較を行いたい。
- ・委員：高齢者に無回答が多い。この無回答にどんな意味があるのか。
- ・事務局：無回答の割合が多いので、単純に欠損値とすると分析結果に影響がある。どのように扱うかは検討中だが、無回答も意味があるものと考えている。

- ・委員：孤独感についての回答は、南部の値は高いと見るのか低いと見るのか。
- ・事務局：市全体の平均より少し高いが顕著な差はない。南部は生活課題も多く、孤独を感じている人が多いと予測していたが、それほどでもなかった。南部で直接質問よりも間接質問の方が孤独感の値が高くなっているのは、孤独感を直接訴えているわけではないが、明示的になっていない孤独の存在を示しているのかもしれない。中部も間接質問では孤独感が強く、どちらも属性要因を掛け合わせて分析を進める予定である。
- ・委員：質問ではなくコメントです。孤独感への対処についての質問で、孤独感をよく感じている人の3割がどう解消してよいかわからないと回答している。これにどう対応するのかが課題の一つである。また、孤独感が時々ある人の半数は家族か友人と解消したいと回答している。これは行政が直接対策できる問題ではないが、庁内でデータを共有できればいいと思う。

#### ≫「豊中市における健康データの利活用に関する調査研究」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：庁内のデータを統一的に管理する部門が庁内にあるのか。
- ・事務局：データは基本的に担当各部局で管理している。データ管理について、個人情報に関しては取扱ルールがあるが、匿名情報について統一的なルールはなかった。今回は大学と共同研究の契約をし、匿名情報の取扱について他市も参考にしながら進めている。
- ・委員：社会的処方の場合も同じだが、今後は各部局が持っているデータを横断的に使えるほうがより活用できると思う。庁内のデータを包括的に管理し、利活用できる方法をぜひ提案してほしい。
- ・委員：ビッグデータをどう管理するかは、行政だけでなく大学や学会も同じ課題に直面している。医療倫理や医療経済学などの分野も参考になる。
- ・事務局：いただいたご意見を参考にして研究を進めていきたい。

#### ○案件（2）令和4年度（2022年度）機関誌について（中間報告）

資料：資料2「機関誌「とよなか都市創造 Vol.1」について（中間報告）」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：特に地域で活動している方のインタビューをまとめるという形式はよいと思う。今後もこのような取り組みを進めてほしい。

### ○案件（3）令和5年度（2023年度）事業計画について

資料：資料3「令和5年度（2023年度）事業計画について」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、意見をまとめる。

- ・委員：子どもに関する調査研究について、子どもとはどの範囲か。また、データの蓄積について、子ども生活実態基礎調査の中に生活実感などの主観的な項目も含まれるのか。
- ・事務局：子どもの範囲は検討中であるが、基本的には小中学生を想定している。総合的な研究なので、高校生や就学前児童も含めるのかは、関係部局と相談しながら決める。生活実態調査については今後、各担当部局と調整しながら細部を検討する。ご指摘のあった生活実感の他にも、普段の生活と学力や生きる力との関係も探ることのできる内容としたい。
- ・委員：データを取ることが目的ではなく、仮説を検証することがデータを取る目的である。そのためには、質問紙設計の前に仮説をしっかりと立てることが重要。細かくたくさん聞けばいいというものではなく、必要なものを経年的にとっていくことをしっかりしてほしい。
- ・委員：是非高校生のデータもとってほしい。政策提言のためにデータを探していても、小中学生のデータはあっても、高校生のデータは少ない。
- ・委員：ここ数年、研究所は統計データに基づく研究が中心になっている。地域に出てインタビューやヒアリングで現場の声も拾ってほしい。
- ・事務局：研究所は現場のニーズに即した研究をめざしており、担当課と共同研究を行うなどして現場の課題解決に力をいれている。いただいたご意見をふまえながら事業計画をまとめていきたい。

### ○案件（4）その他

#### ≫事務連絡

- ・次回運営委員会は2月中旬ごろを予定。

○閉会